

〔ワケネギ「東京小町」の周年安定生産のための総合的微小害虫管理対策〕

## 都内ワケネギ産地のネギアザミウマの殺虫剤感受性

加藤綾奈・大林隆司・栄森弘己\*・菅原優司\*・伊藤俊輔\*・小野 剛\*<sup>2</sup>・竹内浩二\*<sup>3</sup>  
(生産環境科・\*中央普セ・\*<sup>2</sup>農振事・\*<sup>3</sup>江戸川分場)

---

【要 約】 都内6地域のワケネギのネギアザミウマの殺虫剤感受性を生物検定法で調査した結果、感受性は地域により異なり、一部の薬剤（ピリダリル水和剤、レピメクチン乳剤）で低下しているものの、維持されている。なお、散布履歴との関連は判然としない。

---

### 【目 的】

都内ワケネギのネギアザミウマの殺虫剤感受性検定は2004年以来行われていない。当時とは異なる薬剤も使われていることから、主な生産地の個体群の殺虫剤感受性を検定し、現状を把握することで今後の防除対策のための基礎資料とする。

### 【方 法】

1. 採集地・採集年月日：世田谷区喜多見・同区上祖師谷：2019年7月17日，府中市是政：2019年7月23日，足立区入谷：2019年7月31日，江戸川区鹿骨（農総研江戸川分場）・立川市富士見町（農総研）：2019年8月19日。
2. 調査方法：ワケネギ葉を叩いてバットに落ちたネギアザミウマを吸虫管で回収し、検定まで（最長で採集翌日）ソラマメ催芽種子で維持した。感受性検定は、成虫に対するインゲンマメ葉片浸漬法（柴尾，2019）により行った。検定薬剤は各生産地で使われているものを中心に、異なる系統の12薬剤を選定した（表1，ただしアファーム乳剤は未登録）。検定は各薬剤で10個体以上3反復としたが，8個体の場合もあった。なお，世田谷区の2個体群は採集個体数が少なかったため，一部の薬剤の検定となった（喜多見：5薬剤，上祖師谷：2薬剤）。処理48時間後の死亡率から補正死亡率を算出した。

### 【成果の概要】

1. 地域により補正死亡率は異なったが，アセタミプリド剤，ニテンピラム剤，スピネトラム剤，フルキサメタミド剤，フロメトキン剤は殺虫効果が高いとされる90%以上の補正死亡率を示した。また，6薬剤で殺虫効果が認められる70%以上90%未満の補正死亡率を示した。（表2）。
2. 一方，ピリダリル剤は殺虫効果が低いとされる50%未満の補正死亡率（43%）を示した。また，レピメクチン剤は殺虫効果が認められるがその効果は低いとされる50%以上70%未満の補正死亡率（54%）を示した（表2）。
3. 各地の散布履歴と補正死亡率について比較したが，関連性は判然としなかった。
4. 今回の検定結果から，一部の薬剤を除き，薬剤感受性が維持されていることが明らかとなった。

### 【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 定期的に薬剤感受性を検定することが望ましい。
2. 検定結果は普及センターを通じて生産者に周知する。

表1 供試薬剤

有効成分名	薬剤名	作用機構分類コード	希釈倍率	展着剤 (使用:○)
アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	4A	2000	○
ニテンピラム	ベストガード水溶剤	4A	1000	○
チアメトキサム	アクタラ顆粒水溶剤	4A	1000	○
スピネトラム	ディアナ SC	5	2500	○
スピノサド	スピノエース顆粒水和剤	5	2500	○
レピメクチン	アニキ乳剤	6	1000	
エマクチン安息香酸塩 <sup>a</sup>	アフアーム乳剤	6	1000	
チオシクラム	リーフガード顆粒水溶剤	14	1500	○
シントラリア <sup>®</sup> ロール	ベネビア OD	28	1000	○
フルキサメタミド	グレーシア乳剤	30	2000	
フロメトキン	ファインセーブ FL	未設定 (Qi 阻害剤)	1000	○
ピリダリル	プレオ FL	UN	1000	○
(水道水: 対照区)	—	—	—	○

a) ワケネギのネギアザミウマ, アザミウマ類に登録なし (参考).

表2 都内のワケネギのネギアザミウマ個体群の各種薬剤に対する補正死亡率<sup>a</sup>

有効成分名	立川市	江戸川区	府中市	足立区	世田谷区	世田谷区	平均 <sup>b</sup>
	富士見町	鹿骨	是政	入谷	喜多見	上祖師谷	
アセタミプリド	100.0	96.8	94.7	100.0	100.0	100.0	98.6
ニテンピラム	85.7	97.2	100.0	81.1	— <sup>c</sup>	—	91.0
チアメトキサム	53.3	69.3	92.1	77.3	—	—	73.0
スピネトラム	69.3	96.6	100.0	85.9	100.0	—	90.4
スピノサド	69.3	34.7	81.8	89.9	100.0	84.2	76.7
レピメクチン	37.7	54.3	80.3	43.6	—	—	54.0
エマクチン安息香酸塩 <sup>d</sup>	75.6	85.7	100.0	94.9	—	—	89.1
チオシクラム	90.2	77.7	73.0	100.0	100.0	—	88.2
シントラリア <sup>®</sup> ロール	53.1	60.2	94.6	89.5	—	—	74.4
フルキサメタミド	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0
フロメトキン	100.0	91.8	100.0	100.0	—	—	98.0
ピリダリル	56.7	35.8	69.5	10.4	—	—	43.1
水道水: 対照区	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

a) (処理区死亡率－対照区死亡率/100－対照区死亡率) × 100.

b) 補正死亡率 90%以上: □, 70%以上 90%未満: ■, 50%以上 70%未満: ■, 50%未満: ■.

c) 未調査.

d) ワケネギのネギアザミウマ, アザミウマ類に登録なし (参考).